



平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月6日

上場会社名 株式会社 カプコン

上場取引所

東証一部・大証一部

コード番号 9697

URL

<http://www.capcom.co.jp/>

代表者 役職名 代表取締役社長 辻 本 春 弘

問合せ先責任者 役職名 取締役常務執行役員 阿 部 和 彦

TEL (06)6920-3605

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績（平成19年4月1日～平成19年12月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 (当 期) 純 利 益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
20年3月期第3四半期	51,655 4.8	6,101 △8.2	6,520 △15.3	3,574 △17.8
19年3月期第3四半期	49,283 2.8	6,648 40.1	7,701 45.2	4,347 △41.5
(参考) 19年3月期	74,542	9,602	10,600	5,852

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	61 45	53 95
19年3月期第3四半期	79 38	60 23
(参考) 19年3月期	107 52	84 81

(2) 連結財政状態

	総 資 産	純 資 産	自 己 資 本 比 率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	90,081	51,149	56.8	847 03
19年3月期第3四半期	97,542	42,368	43.4	766 75
(参考) 19年3月期	91,478	45,144	49.3	799 35

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金および現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	1,102	△2,204	△2,201	31,087
19年3月期第3四半期	5,957	△5,700	△4,997	36,260
(参考) 19年3月期	16,063	△6,715	△15,206	35,020

2. 平成20年3月期の連結業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通 期	81,600 9.5	11,500 19.8	11,000 3.8	6,200 5.9	105 59

※業績予想につきましては、本日「通期業績予想の修正に関するお知らせ」を別途公表しておりますので、ご参照ください。

3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

無

(2) 会計処理方法における簡便な方法の採用の有無

有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無

有

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 5. その他をご覧ください。]

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・予想1株当たり当期純利益の算出に際しましては、1月末時点において合理的に算出可能な予想期中平均株式数（58,715千株）を使用しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、堅調な雇用情勢や底堅い設備投資が続きましたものの、株価の下落や円高の進行に加え、米国経済の減速懸念や原油高など国際的な不安定要因により、景気は回復基調を持続しながらも、先行き不透明感を増してまいりました。

当業界におきましては、高齢者や女性など初心者層の増加により、ゲーム人口が拡大するとともに市場は活性化し、好調に推移いたしました。

こうした状況のもと、当社は主力部門のコンシューマ用ゲームソフト事業において、シリーズ最新作の「バイオハザード アンブレラ・クロニクルズ」(Wii用)が欧米を中心に堅調に販売を伸ばすなど、年末商戦は順調な出足を示すことができました。

また、昨年2月発売の「モンスターハンターポータブル 2nd」が、異例のロングセラーによりプレイステーション・ポータブル向けタイトルとしては、国内出荷本数が初めて150万本を達成し、金字塔を打ち立てました。

しかしながら、アミューズメント施設運営事業や業務用機器販売事業は、環境の好転が見られず苦戦を免れませんでした。

なお、昨年当社の人気ゲームを題材にしたハリウッド映画「バイオハザードⅢ」が全世界で公開され、前回上映の「バイオハザードⅡ」の実績を上回るなど好評を博し、コンテンツビジネスに弾みがついてまいりました。

この結果、売上高は516億55百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

利益面につきましては、アミューズメント施設の出店に伴う経費の増大や業務用機器販売事業の不振などが収益を圧迫し、営業利益61億1百万円（前年同期比8.2%減）、経常利益65億20百万円（前年同期比15.3%減）、四半期純利益は35億74百万円（前年同期比17.8%減）といずれも減益になりました。

事業の種類別セグメントの状況

①コンシューマ用ゲームソフト事業

当事業におきましては、目玉タイトルの「バイオハザード アンブレラ・クロニクルズ」(Wii用)が好調に推移するとともに、「宝島Z バルバロスの秘宝」(Wii用)や「戦国 BASARA2英雄外伝 (HEROES)」(Wii、プレイステーション2用)も底堅い売行きを示しました。

また、「Moto GP 07」(プレイステーション2用)も欧州を中心に販売が伸長したことにより、健闘いたしました。

加えて、昨年2月発売の「モンスターハンターポータブル 2nd」(プレイステーション・ポータブル用)の国内出荷本数が初めて150万本を突破するなど、ロングセールスを記録いたしました。

一方、「WE LOVE GOLF!」(Wii用)や「流星のロックマン2」(ニンテンドーDS用)は伸び悩みました。

この結果、売上高は308億52百万円（前年同期比23.3%増）、営業利益は60億39百万円（前年同期比38.2%増）と増益となりました。

②アミューズメント施設運営事業

当事業におきましては、各種イベントの開催やサービスデーの実施等により女性やファミリー層の取り込みに注力し、集客力のアップに努めてまいりました。

しかしながら、子供向けカードゲームの人気低迷や活気づいている家庭用ゲーム市場の影響による需要減退など、消費マインドの低下による客足や客単価の落ち込みにより精彩を欠き、弱含みに展開いたしました。

なお、当第3四半期における新規出店といたしましては、埼玉県に「プラサカプコンエルミこうのす店」および「プラサカプコン羽生店」をオープンしたほか、「プラサカプコンロックシティ佐沼店」(宮城県)、「プラサカプコン甲府店」(山梨県)、「プラサカプコンりんくう店」(大阪府)および「プラサカプコン足利店」(栃木県)を出店いたしました。

これにより、第3四半期末の施設数は41店舗となっております。

この結果、売上高は95億77百万円（前年同期比0.5%減）となり、営業利益は新規開店費用の増大などにより5億73百万円（前年同期比62.2%減）となりました。

③業務用機器販売事業

当事業におきましては、逆風が吹き荒れる中、「2007年冬 カプコン プライベートショー」の開催など、局面打開のため懸命の営業展開を行ってまいりましたが、商材不足による小粒なラインアップに加え、家庭用ゲームソフトとのシナジー効果を創出できなかったほか、「ドンキーコング バナナキングダム」の不具合による負の連鎖も重なって、厳しい状況が続きました。

この結果、売上高は21億98百万円（前年同期比68.0%減）となり、営業損失6億92百万円（前年同期は9億47百万円の営業利益）の計上のやむなきに至りました。

④コンテンツエキスパンション事業

当事業におきましては、商機の拡大を図るため積極的な事業展開を行った結果、携帯電話向けゲーム配信事業は堅調に推移し、収益向上に貢献いたしました。

一方、当該期間における遊技機向け関連機器については新規商品の投入はなく、主として少数のパチスロ機向け周辺機器の供給にとどまりましたため、軟調に推移いたしました。

この結果、売上高は70億42百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益22億82百万円（前年同期比20.9%増）となりました。

⑤その他事業

その他事業につきましては、主なものはキャラクター関連のライセンス事業で、売上高は20億12百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益3億66百万円（前年同期は41百万円の営業損失）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べ13億96百万円減少し、900億81百万円となりました。

主な資産の変動は、売上債権の回収が進んだことにより「受取手形および売掛金」が14億86百万円減少したこと等によるものであります。

主な負債の変動は、新株予約権付社債の権利行使が進んだことにより「新株予約権付社債」が47億90百万円減少したことによるものであります。

主な純資産の変動は、新株予約権付社債の権利行使等により「資本金」および「資本剰余金」が47億93百万円増加したことによるものであります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報

当第3四半期末における現金および現金同等物（以下「資金」という）は310億87百万円となり、前連結会計年度末より39億33百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、11億2百万円の資金増加となりました。主な要因といたしましては、税金等調整前四半期純利益が63億81百万円の資金増加となる一方、ゲームソフト仕掛品の増加により45億63百万円およびたな卸資産の増加により9億74百万円の資金減少となったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、22億4百万円の資金減少となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出22億64百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、22億1百万円の資金減少となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出17億32百万円によるものであります。

4. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想に関する事項につきましては、本日平成20年2月6日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

5. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

（2）会計処理の方法における簡便な方法の採用

税金費用の計算等について、法定実効税率をベースとした簡便な方法を採用しております。

引当金の計算基準等について、簡便な方法を採用しております。

また、その他影響額の僅少なものにつき、一部簡便な手続きを採用しております。

（3）最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

当期より、法人税法の改正に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産につきましては、改正法人税法に規定する償却の方法によっております。なお、この変更に伴い、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益が、それぞれ1億38百万円減少しております。

また、役員退職慰労金については、従来は株主総会の決議を経た上で支出時に費用計上していましたが、役員退職慰労金の引当計上が会計慣行として定着してきたことならびに、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 平成19年4月13日 監査・保証実務委員会報告第42号）が公表されたことを踏まえ、役員の内任期間に対応した費用配分を行うことで期間損益の適正化および財務体質の健全化を図る目的で、当期より内規等に基づき合理的に算定できる金額を役員退職慰労引当金として計上する方法に変更いたしました。なお、この変更に伴い、営業利益および経常利益が21百万円、税金等調整前四半期純利益が3億71百万円それぞれ減少しております。

6. （要約）四半期連結財務諸表
 (1) （要約）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円、％）

科 目	前期末 (平成19年3月期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減 (対前期末比)		前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)
	金額	金額	金額	増減率	金額
(資産の部)					
I 流動資産					
1 現金および預金	35,020	31,087	△3,933		36,056
2 受取手形および売掛金	11,417	9,930	△1,486		13,264
3 有価証券	—	—	—		203
4 たな卸資産	3,488	4,377	888		4,430
5 ゲームソフト仕掛品	3,415	7,242	3,827		5,735
6 繰延税金資産	3,215	2,774	△441		2,414
7 短期貸付金	1,204	—	△1,204		1,224
8 その他	3,871	2,706	△1,164		3,305
9 貸倒引当金	△1,543	△382	1,161		△1,306
流動資産合計	60,089	57,737	△2,352	△3.9	65,329
II 固定資産					
1 有形固定資産					
(1) 建物および構築物	6,091	5,518	△572		6,129
(2) 機械装置および運搬具	160	247	86		85
(3) 工具器具備品	790	801	11		640
(4) レンタル機器	667	433	△233		815
(5) アミューズメント施設機器	3,022	4,026	1,003		2,988
(6) 土地	4,480	4,391	△88		4,481
(7) 建設仮勘定	287	276	△10		232
有形固定資産合計	15,500	15,696	196	1.3	15,372
2 無形固定資産					
(1) のれん	1,058	1,019	△38		1,067
(2) その他	1,219	2,372	1,152		919
無形固定資産合計	2,277	3,391	1,114	48.9	1,986
3 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	1,794	2,019	224		2,035
(2) 長期貸付金	907	884	△22		837
(3) 繰延税金資産	5,786	4,422	△1,364		7,226
(4) 破産債権更生債権等	161	907	745		159
(5) 差入保証金	5,002	5,717	715		4,814
(6) その他	564	1,003	439		520
(7) 貸倒引当金	△605	△1,699	△1,093		△741
投資その他の資産合計	13,611	13,256	△355	△2.6	14,852
固定資産合計	31,389	32,344	955	3.0	32,212
資産合計	91,478	90,081	△1,396	△1.5	97,542

（単位：百万円、％）

科 目	前期末 (平成19年3月期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減 (対前期末比)		前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)
	金額	金額	金額	増減率	金額
(負債の部)					
I 流動負債					
1 支払手形および買掛金	7,489	7,306	△183		9,376
2 短期借入金	755	2,155	1,400		700
3 1年以内償還予定の 転換社債	—	—	—		10,000
4 未払法人税等	875	886	10		460
5 賞与引当金	1,746	930	△816		598
6 返品調整引当金	462	384	△78		157
7 その他	8,417	6,411	△2,005		5,637
流動負債合計	19,747	18,073	△1,674	△8.5	26,931
II 固定負債					
1 転換社債	15,000	14,997	△3		15,000
2 新株予約権付社債	6,635	1,845	△4,790		8,140
3 長期借入金	3,430	1,575	△1,855		3,675
4 退職給付引当金	933	1,012	79		911
5 役員退職慰労引当金	—	365	365		—
6 その他	588	1,063	475		515
固定負債合計	26,586	20,858	△5,727	△21.5	28,242
負債合計	46,334	38,932	△7,401	△16.0	55,173
(純資産の部)					
I 株主資本					
1 資本金	29,915	32,314	2,398		29,162
2 資本剰余金	17,637	20,031	2,394		16,885
3 利益剰余金	5,555	7,397	1,842		4,050
4 自己株式	△8,138	△8,152	△14		△8,135
株主資本合計	44,970	51,590	6,620	14.7	41,963
II 評価・換算差額等					
1 その他有価証券評価差額金	482	297	△184		586
2 繰延ヘッジ損益	1	0	△1		2
3 為替換算調整勘定	△326	△740	△413		△212
評価・換算差額等合計	157	△441	△598	△381.1	376
III 少数株主持分	16	—	△16	△100.0	29
純資産合計	45,144	51,149	6,004	13.3	42,368
負債純資産合計	91,478	90,081	△1,396	△1.5	97,542

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、％)

科 目	前年同四半期 〔平成19年3月期〕 第3四半期	当四半期 〔平成20年3月期〕 第3四半期	増 減		(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金額	金額	金額	増減率	金額
I 売上高	49,283	51,655	2,371	4.8	74,542
II 売上原価	31,734	32,908	1,174	3.7	48,046
売上総利益	17,549	18,746	1,197	6.8	26,496
返品調整引当金繰入額	—	—	—		113
返品調整引当金戻入額	191	78	△112		—
差引売上総利益	17,740	18,825	1,084	6.1	26,382
III 販売費および一般管理費	11,091	12,724	1,632	14.7	16,779
営業利益	6,648	6,101	△547	△8.2	9,602
IV 営業外収益	1,219	1,161	△58	△4.8	1,405
1 受取利息	621	918	296		882
2 受取配当金	17	21	4		17
3 為替差益	554	—	△554		444
4 その他	26	221	194		60
V 営業外費用	166	742	576	346.6	407
1 支払利息	54	54	0		72
2 為替差損	—	550	550		—
3 貸倒引当金繰入額	9	83	73		151
4 その他	102	53	△48		184
経常利益	7,701	6,520	△1,181	△15.3	10,600
VI 特別利益	104	669	564	541.9	104
1 固定資産売却益	1	401	400		1
2 訴訟和解金	103	—	△103		103
3 償却債権取立益	—	233	233		—
4 投資有価証券売却益	—	34	34		—
VII 特別損失	535	808	273	51.0	718
1 固定資産除売却損	134	6	△127		173
2 過年度役員退職慰労 引当金繰入額	—	350	350		—
3 投資有価証券評価損	35	25	△9		103
4 開発中止損	365	—	△365		442
5 訴訟関連費用	—	425	425		—
税金等調整前四半期(当期)純利益	7,271	6,381	△889	△12.2	9,986
税金費用	2,930	2,824	△105		4,143
少数株主損失	6	16	10		9
四半期(当期)純利益	4,347	3,574	△773	△17.8	5,852

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前年同四半期 〔平成19年3月期〕 第3四半期	当四半期 〔平成20年3月期〕 第3四半期	(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金額	金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	7,271	6,381	9,986
2 減価償却費	1,988	2,362	2,774
3 貸倒引当金の増加額	33	9	137
4 受取利息および受取配当金	△638	△939	△900
5 支払利息	54	54	72
6 固定資産売却益	△1	△401	△1
7 投資有価証券売却益	—	△34	—
8 投資有価証券評価損	35	25	103
9 訴訟和解金	—	—	△103
10 売上債権の増減額(△増加)	△158	703	1,659
11 たな卸資産の増加額	△661	△974	△252
12 ゲームソフト仕掛品の増減額(△増加)	613	△4,563	2,933
13 仕入債務の増減額(△減少)	2,049	△279	186
14 その他	△2,927	△1,179	1,002
小計	7,657	1,164	17,596
15 利息および配当金の受取額	598	939	876
16 利息の支払額	△42	△46	△67
17 訴訟和解金の受取額	—	—	103
18 法人税等の支払額	△2,256	△955	△2,444
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,957	1,102	16,063
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 有形固定資産の取得による支出	△3,424	△2,264	△3,804
2 有形固定資産の売却による収入	41	935	40
3 無形固定資産の取得による支出	△380	△1,074	△671
4 投資有価証券の取得による支出	—	△562	△116
5 投資有価証券の売却による収入	—	34	—
6 連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,565	—	△1,612
7 貸付金の回収による収入	152	1,460	73
8 その他	△522	△733	△624
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,700	△2,204	△6,715
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 短期借入れによる収入	—	—	55
2 長期借入金の返済による支出	△455	△455	△700
3 転換社債の償還による支出	—	—	△10,000
4 自己株式の売却による収入	0	0	0
5 自己株式の取得による支出	△3,248	△14	△3,251
6 親会社による配当金の支払額	△1,330	△1,732	△1,337
7 少数株主による払込収入	35	—	26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,997	△2,201	△15,206
IV 現金および現金同等物に係る換算差額	325	△629	203
V 現金および現金同等物の減少額	△4,415	△3,933	△5,654
VI 現金および現金同等物の期首残高	40,652	35,020	40,652
VII 新規連結に伴う現金および現金同等物の増加額	22	—	22
VIII 現金および現金同等物の期末残高	36,260	31,087	35,020

(4) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前年同四半期 (平成19年3月期第3四半期)

(単位: 百万円)

	コンシューマ用 ゲームソフト 事業	アミューズメント 施設運営 事業	業務用機器 販売事業	コンテンツ エクステンション 事業	その他事業	計	消去 または全社	連結
売上高および営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	25,012	9,627	6,834	6,056	1,753	49,283	(一)	49,283
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	30	—	—	30	(30)	—
計	25,012	9,627	6,864	6,056	1,753	49,313	(30)	49,283
営業費用	20,643	8,111	5,916	4,167	1,794	40,633	2,001	42,634
営業利益または営業損失 (△)	4,369	1,516	947	1,888	△41	8,680	(2,031)	6,648

当四半期 (平成20年3月期第3四半期)

(単位: 百万円)

	コンシューマ用 ゲームソフト 事業	アミューズメント 施設運営 事業	業務用機器 販売事業	コンテンツ エクステンション 事業	その他事業	計	消去 または全社	連結
売上高および営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	30,852	9,577	2,170	7,042	2,012	51,655	(一)	51,655
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	28	—	—	28	(28)	—
計	30,852	9,577	2,198	7,042	2,012	51,683	(28)	51,655
営業費用	24,812	9,004	2,891	4,759	1,646	43,114	2,439	45,553
営業利益または営業損失 (△)	6,039	573	△692	2,282	366	8,569	(2,468)	6,101

(参考) 前期 (平成19年3月期)

(単位: 百万円)

	コンシューマ用 ゲームソフト 事業	アミューズメント 施設運営 事業	業務用機器 販売事業	コンテンツ エクステンション 事業	その他事業	計	消去 または全社	連結
売上高および営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	43,813	13,043	8,021	7,102	2,561	74,542	(一)	74,542
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	39	—	—	39	(39)	—
計	43,813	13,043	8,060	7,102	2,561	74,581	(39)	74,542
営業費用	35,757	11,033	6,691	5,477	3,000	61,961	2,977	64,939
営業利益または営業損失 (△)	8,055	2,009	1,369	1,624	△439	12,619	(3,017)	9,602